館報たつおか

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報部
印刷所
信州印刷株式会社
松本市巾上電ⓐ5686

ルート151竜丘をよぎる

・●●70年代への夢託し●●・

十余年来の悲願

カーブと堀割・橋梁のハイウェイ

▼…昭和三十四年駄科へ渡った国道一五一号線は、三…△
▼…㎞の竜丘を通過するのに十年を費やす牛歩工事と…△
▼…なったが、昨秋ようやく完成、十一月二十三日に…△
▼…開通式が行なわれた。開通まで度重なる路線変更…△
▼…牛歩工事「カーブと堀割と橋梁」のハイウェーな…△
▼…ど幾多の問題、話題を残しながら開通したルート…△
▼…一五一バイパスを、その開通式を中心に、開通ま…△
▼…での歴史、今后の課題など特集してみました。…△

十一月二十三日開通式は快晴に恵まれ、午后二時十分より駄科鍋屋さん前で、この日を待ちわびた地区民が多勢見守る中で、まず神事が行なわれた。

神事は、神官をはじめ、知事代理、飯田建設事務所長、県会議員市長、警察署長、建設業者、自治会長、地主代表の玉串奉典のあと建設事務所長、市長、吉沢工務所社長の三人がテープに鋏を入れ、ついに待望の国道一五一号線バイパスは晴れて開通となった。

開通パレード

開通パレードは、神官二人の乗った広報車を先頭に、渡り初めの三夫婦など関係者の乗った車が続き、このあとを、この日を待ち望み祝福する車約二百台が延々と続く大パレードとなった。

途中、駄科、桐林をひとまたぎにし、その矩離を大巾に短縮した延長一二七メートル、高さ二九メートルの新川橋の渡り初めが、桐林の林一さん、上川路の木下定市さんの御家族、三夫婦により行なわれた。

再び自動車に分乗、桐林の水田地帯をほぼ直線で通過し駒沢橋へ。ここからは一面の桑園が広がる塚原のど真中を縦断し上川路へ、ここでも歓迎する地元民のうち振る小旗で埋まった。

このあと竜丘小学校講堂で祝賀式が行なわれ、建設事務所長の工事経過報告、知事（代理）県会議員、市長の祝辞があり、土地被買収者、一般祝賀者など約三百人が開通を祝福した。

ここで川路バイパスの工事概要をふり返ってみる。

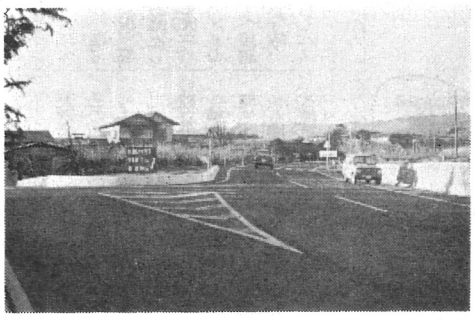
◇駄科～天龍峡入口間

延長　五五〇六・八㍍
内新川橋外十一橋八六七㍍
巾員　車道巾員五・五㍍～六㍍
事業費、五億七五一七万円
内訳
工事費　二七九三二二千円
用地補償　二四〇一〇〃
橋梁　一二四八八六〃
舗装　五六九六七〃
工事期間　昭和三七年～四四年
労力　延　一〇四千人

◇駄科～上川路県道交叉間

延長　三〇一九・四㍍
巾員　車道巾六㍍全巾七・五㍍
事業費　三億五三八二万円
内訳
工事費　一五七五八〇千円
用地補償　六六七七二〃
橋梁　九七五〇四〃
舗装　三一九六七〃
尚橋梁のうち新川橋は長さ二二七・五五㍍　巾八㍍　事業費六千四百万円。駒沢橋は長さ七九・七㍍　巾八㍍　事業費三千三百万円　工事期間　昭和四一年～四四年。
労力　延　六万六千人

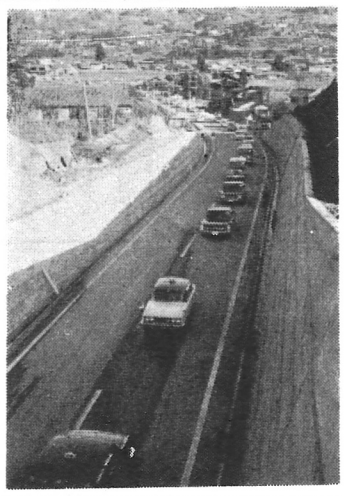
かくして昭和二十九年、時又の現道を通過する事が決ってより二転三転、さまよい続け、その間利害の対立、陳情合戦憶測と乱れ飛ぶ情報、土地交渉の難行等十五年の才月と幾多の話題を提供した国道一五一号線は、ここにそれらを生れ出づる悩みとし、延長百余メートルの新川橋に、巾員八メートルのアスファルトの下に胞含し、新しい七〇年代への竜丘の期待を担いつつスタートしたのである。



（上）川路バイパス入口
（下）大井川立体交叉より開通パレードの車

開通までの歴史

昭和29年1月　竜丘村々長年頭に国道一五一号線の改修を発表。
昭和31年　駄科、長野原、時又、上川路を通過する測量行わる。
昭和34年11月　国道コース誘置に関して時又、桐林両地区より陳情書出る、地区内世論高まる。
昭和35年　毛賀沢橋完成、鍋屋まで開通。
昭和36年6月　36災害に合い毛賀沢橋流失。
昭和37年　毛賀沢橋復旧。
昭和37年7月　コース決る（鍋屋―駄科旧火の見附近―学校前―飯田帝通上―塚原―開善寺裏）
昭和41年　久米川より時又―中村線交叉まで完成。
昭和41年3月　幾多の変遷を経て現在のコースに最終決定。
昭和42年3月　久米川から駒沢まで完成。
昭和42年12月　駒沢から新川橋まで完成。
昭和43年8月　駒沢橋完成。
昭和43年9月　新川橋完成。
昭和44年5月　大井川立体交叉完成。
昭和44年10月　竜丘地区全線舗装なる。
昭和44年11月23日　全線開通、祝賀会行なわれる。



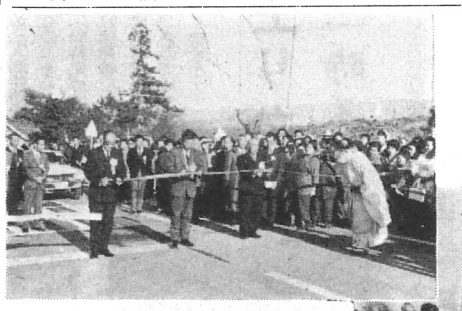
安全確保と開発が課題

国道開通が竜丘の七〇年代を象徴してゆくであろう、地区の開発に大きな影響を与えるものと推察されるが利用の方法によっては地区民の生活を崩壊させてしまいそうな危険な兆候がいくつか表れている。「十二月二十一日午后上川路のバイパスで軽トラックが軽乗用車を追いこそうとして前から来た乗用車と衝突、軽トラックの運転手は右足とあごの骨を折るなどで六カ月の重傷、原因は軽トラックの追越し不適当」この時の現場の実体はよくは解らないが、この付近は開善寺裏の堀割で急勾配の坂の頂上、坂を登り詰めないと前方の見通しがつかない。道路交通法では追越し禁止区域とはなっているが、桐林側からも上川路からもスピードを上げて通るため、少しのミスが大きな事故につながる危険カ所である。竜丘のバイパスはこの様な危険カ所が多く、また人家も無く市街地に比べて車のスピードを上げ易い、しかも安全施設も少く歩道も路面にペンキで標示しただけのものでは大きな事故の起る確率が高い。

特に学童、保育園児の登校、下校の安全保護はP・T・A、保護者のみの問題ではなく竜丘に国道を開けた代償としてでも防護サク、横断歩道橋等により早急な安全確保が望まれる。交通事故対策の完備が国道最大の問題点であろう。

また、国道から各地域の主要幹線に抜ける道は、大型車、車の台数の増加に対応できる道路として機能が整っていない。現在竜丘地区内に県道が一本も通っていないと云うものの時又＝バイパス・バイパス＝殿岡・中村線等は新規開通した国道に合せて格上の処置により道路地図の書き替えも考える時ではないだろうか。

細部の市道、農道に至っては前時代的な所が多く、「国道はあいたものの」と云う地域が少くない。



（上）テープに鋏を入れ待望の開通
（下）神主を先頭に三代夫婦の渡り初め

積極的な対策を

今後の課題欄でもとりあげましたが、開通と共に一番心配されるのが交通事故、既設国道の拡張と違い、全くの新道だけに、そこに住む住民は、交通量頻繁な道路通行になれていないため、又カーブ等非常に多い為事故多発が心配される。現在自治協議会では、横断歩道、横断線を引いた程度で、国県の出方待ちといったところ。

竜丘小学校では既に昨年、交通安全広場の新設、母と子の安全教室等安全教育に力を入れている。

今まで県道すらなかった桐林地区では、一躍国道通過で交通革命を迎えたため、公民館など中心となり、交通安全教室に力を入れはじめている。

いずれにしても、日毎に増加する交通量に伴なう事故防止のために国、県、市の積極的な対策が望まれる。

第七回 公民館大会開かる

第七回飯田市公民館大会が去る十二月十四日に市役所で開催された。

開会に先立ち社会教育功労者として二十六名の方々が教育委員会より感謝状を受けられました。

当地区からも体育部長の中平明人氏が長年にわたって社会教育につくされ二十六名の中にふくまれて感謝状を受けました。

続いて出席者全員が

一、社会教育の行財政について
二、青年の学習活動について
三、婦人の学習活動について
四、老人の学習活動について
五、分館の活動について
六、文化委員会の活動について
七、広報委員会の活動について
八、体育委員会の活動について
九、読書活動について

のそれぞれの分科会に分かれて話合をした。

分科会のあと

日本農山漁村文化協会の浪江慶先生の「地域開発と私たちの生活」という講演を聞き

大会スローガン

一、私たちは、自から生活課題をとらえおたがいの学習活動を活発にしよう
一、公民館の独立施設の確保と社会教育専門職員の増員と社会教育予算の大巾増額をはかろう
一、市民の自主的な学習活動をさかんにするため、公民館機能の委員会、分館活動を活発にしようの各項目を確認し閉会となった。

桐林公民館で安全教室

今まで農村地帯であり比較的大きな道も通っていなかった桐林地区が、国道一五一号線バイパスの開通により、にわかに交通戦争のまっただ中に立たされる結果になった。そこで昨年十二月桐林公民館の主催で交通安全教室が開催された。この安全教室には婦人会、老人クラブ、PTA、区会等、多くの団体、多数の地域住民が参加して行なわれた。当日は飯田警察署の交通課の職員の指導により主として国道のバイパスの開通に伴う、正しい横断の仕方を中心に講習が行なわれた。子供を持つ親達の関心の高いのには特に目を引かれた。今後益々車の増加が予想される折に、安全教室が各地区で開かれる事をのぞみたい。

消防団人事

▽分団長　増田　義和
▽副分団長　金子　隆一
▽庶務部長　大平　寿一
▽消防部長　前島　隆
▽警護部長　折金　正一
▽責任班長　駄科　関島東洋雄　長野原　小笠原健一、桐林　中島康、時又　斉藤義登、上川路　木下広志

随想リレー（84回）

恩師代田市郎先生

駄科　林省三

私が尋常六年の四月、先生に御世話になり其の后高等科二年迄三カ年教えて戴き其の間今以って私の脳裡から追想させられる事は、先生の教育に対する熱意、且厳格そして、其の御話にはユーモアがあった事が私の印象に深く残っています。

当時私が九才の一月父に、その十二月長姉を、翌年七月長兄に先立たれ兄義二、十四才私が九才妹ふみ子が五才信子が二才でした。

母が病弱の為兄が炊事をしていましたが、私の六年四月から炊事を引受けましたが、遊ぶのが先で朝は妹や母からヤンヤといわれて起き後かたつけも、そこそこに飛ぶ様にして三人通学していました。

当時先生は、遅刻者は其の一時間は廊下に立たされて厳格に本人等に反省注意を促す方針を取られていました。

それからは順次生徒は時間通りに登校して熱心に教へを受けていました。

併し私は相変らず遅れて一人丈でぽつねんと廊下に立たされていました。

当時通学路は竜丘の外旧道の一本橋に丸太の太いのが一本かけてあり急ぐ余りここを通学路にしていました。或る雨の日、信子を負ひふみ子の手を引いて渡る途中足をすべらせて新川へ落ち履物を流して素足で飛んで行き遅れて一時間廊下に立たされた事が想い出されます。

其の后私も炊事を心得て遅れなくなり一時間目から授業を受けられる様になりました。

高等科になってから先生の教育が益々熱が入っていろいろと教材にユーモアの言葉が印象的で楽しい学校生活が出来た事を五十余年の過去を追想して感慨無量です。

村長六期竜丘村史に空前絶後の二十四年の永きに亘りよく地区竜丘は勿論下伊那郡長野県各方面の地方自治発展の為に御尽力下されて奇しくも飯田市合併直后の竜丘国保創立十五周年記念祭に来賓として祝詞を述べられし最中過去二十四年の古巣の役場内に於て突然倒れそれが急遂に不帰の客となられし事は私の終生わすれ得ざりし印象を刻みこまれ感慨無量です。…

在天の恩師代田先生の御冥福を心より御祈りいたしてかく筆いたします。

三行ニュース

◉恒例の出初式、八日に行わる、他町村では日曜日の所あり、団員の都合も考えてみては、団長殿へ
◉農林議員落選、しかし自民党大勝、年明けて一割作付制限発表、米作り農家はどこへゆく。
◉ポーシ、ブソク、ハッピ、ズボン、手袋、ここまではいい。消防団の乙種正装は地下タビもはいる履かにゃいかんが支給なし。どうすりゃいいのこの寒空に。

ヤブ蚊

▲…センキョ（占拠）で幕あけしセンキョ（選挙）で暮れた一九六九年。学園から街頭へ、角材から火炎ビンへと走り孤立化していった暴徒たち。そして、安保・沖縄問題を軸に七〇年代の日本の進路を国民にゆだねようと異例の年末選挙と、終始国民の前にハプニングな話題を投げかけてくれた一年であった。

▲…アンバランスな経済成長の陰に政治への不信がつのり、今回の選挙は戦後二番目という低投票率国民所得格差の是正、高物価、減税、大学問題、公害、交通問題、そして農政の行き詰まり等、私達の生活に直結した政治課題に対し政治の無力さ、無対策に国民の不信と不満が現われている。

時代の進行の中で政治だけが沈滞していると言われる理由である×…一九七〇年を激動の年とか、変革の時代だという。又、社会に於ては情報社会、管理社会といって、七〇年代の意義をうたっている。六九年から七〇年への移り変わりでなく、六〇年代から七〇年代への移行というべきだろう。

それだけに我々も長く広い視野に立って物事を見つめたいものだ。。。当地区を横断する国道一五一号線川路バイパスの開通と同時に竜丘の一九七〇年代が始った。松尾が順々市街化されても毛賀沢を越えて我が竜丘は時又を除いて上段はほとんど春夏秋冬農村風景をくり返して来た。国道川路バイパスの開通は竜丘地区全体をイヤ応なしに変えていく。計画的、秩序ある開発を望みたい。

10年后の竜丘

まず道路網の整備

文化の中枢「独立公民館」

○……明けましておめでとうございます。輝かしい一九七〇年代のいよい……○
○……よ幕あき。この年代は科学等急速な進歩発展が予想され、十年後と言……○
○……っても想像もつかないことも沢山あります。広報部では十年後の竜丘……○
○……を夢みて、交通、農業、商工業、福祉、教育、観光の諸問題を考えて……○
○……みました。……○
○……題して「初ゆめ、十年後の竜丘」……○

◇**道路、交通**
・県道時又＝中村線が国道に昇格し伊賀良インターチェンジへ。
・市道二、四号線（大井線）都市計画街路として整備拡充され同じくインターチェンジへ接続。
・市道三号線、時又＝バイパスを結ぶ幹線として整備拡充。又帝通より塚原線新設巾員八m。
・都市計画街路下山線が観光ルートとし開発され、鈴岡公園＝天竜峡を結ぶ。
その他地区内の道路網は、バイパスを中心に整備され全線舗装となる。

◇**独立公民館**
会議室、調理室、資料室、大広間等福祉センターとしての機能をも備えた独立公民館が出来る。広間は結婚式場としても大きな役割を果す。

◇**農業**
・基盤整備がなされ農道は舗装。
・農業従事者は減少するも、畜産、園芸と有機的に結びついた近効、集約的農業に。
・米……増産の施策に変る？
・養蚕は共同化により省力、機械化、生産性は向上。
・カアチャン農業……初ゆめとしてはなくしたいが……果して……増々ふえる、というよりは常習化するのでは？

◇**商工業**
・バイパス沿線の駄科下平、桐林、上川路県道交叉附近は軒つづきの商店街となる。又市道三四号等の整備により時又商店街と地区内どことも時間短縮。
・塚原、長野原等の桑園の中に工場が出来る。その他各所に小さな工場が分散。

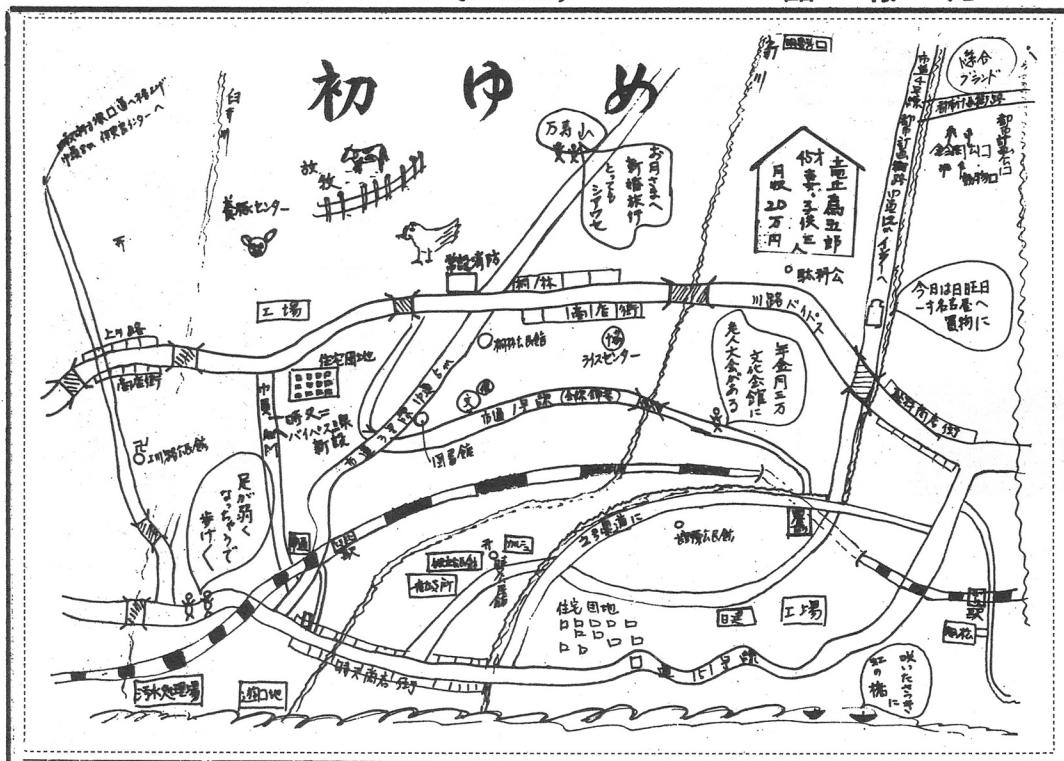
◇**福祉**
市全体では市民文化会館が出来市民の文化の中枢としての機能を果たす。
・養老年金月三万となる（ただし物価据置とする）
・総合グランド、各部落には遊園地が出来る。
・汚水処理場完備黄害追放。
・常設消防出来る

◇**教育**
・義務教育費全額国庫負担に。
・保育科大巾値下げ。
・教育施設の住民負担なくなる（昔はプールの寄附金等だいぶとられたもんだが……）

◇**観光**
鈴岡公園、万寿山公園の整備により、竜丘の観光は一躍脚光を浴びる。
車の極度の普及により、歩け歩け運動が更に一段と活発になり時又＝鈴岡公園＝万寿山＝開善寺と結ぶ地区内一周ハイキングコースが開発される。

◇**十年后の標準世帯**
竜丘為五郎　四十五才　妻と子供三人。○○会社勤務。
月収二〇万円。週五日制。
所得税なし。税外負担なし。

◇**むすび**
この初ゆめなるもの、十年后の希望を大きくとり入れたため、そぐわないと思われる点があるかも知れませんが御容赦の程を。
いずれにしても今后の政治のあり方に左右される事が多く、この意味でも国民のための政治が行なわれる様政治を良く見つめると共に、独立公民館等強力な運動が必要になってくる。十年后も確実に言える事、それは「そこに人間が住んでいる」という事。七〇年代を「人間性回復」の年代としたいものである。
（尚特定地区の開発等に格別の意図をもつものではありません）



「養老年金」月三万円

負担金値上りか？ストップ

市補助一時スト

食糧増産が国の急務であり、安定的な水の供給と、新規開田により米の増産をはかろうという考えのもとに工事をはじめた一貫水路であるが、完成した時、時代は総合農政の名のもとに、米の作付転換、作付面積の一割減反、はては買入制限等々、工事を始めた頃の情勢とは農業政策も大変変ってきた。こうした時に、一貫水路の事業費の償還金は本年から多めになり、水の必要度とは裏腹に色々な問題をなげかけている。

完成までのおいたち

古くから天竜川の水を利用して米の安定増収をはかりたいという夢が伊那谷の農民の間にあった。昭和十三年、農業水利期成同盟会を組織し県に働きかけることにより、具体的な活動が始まった。

色々な問題をかかえながらも、昭和十九年には工事が始まった。しかし戦争は日増に激しくなり、工事の資材も不足しがちになり、一時中止。戦争后食糧増産は、国の急務となり、二三年国営事業として取り上げられ、名称も、「国営竜西農業水利改良事業」となり二十七年工事は新らしくはじまった。

国の工事の変更により末端の方は国営ということで地元負担金を計算している。又、当事業は水稲を主幹作物としていたので負担金徴収の基準を、米になおし、年間償還額の限度を、米一斗に相当する範囲内とするという考え方も出されていた。こうした考え方のもとに負担額と償還計画が作成され、理事、総代の承認がなされた。

それによると竜丘地区は受益面積二三二、二ha、返済金は全体で五六、四〇八、八三二円、昭和三十五年から六十七年迄に十a当平均二五、三七〇円となっている。

今后の問題点

改良区、理事、総代などにより確認されていた地元負担金の負担割合について十二月上旬関係市町村長に対して「改良区の出した償還方法は違法である」との行政指導が県よりなされた。（改良区の計算した、全線国営としての負担方法ではまずいというもの、）改良区の計画した全線国営の返済方法と、を比較して見ると国、県、受益者の負担割合は、

	国営事業	県営事業	団体営
国	六〇%	五〇%	四五%
県	二〇%	二五%	〇%
受益者	二〇%	二五%	五五%

この計算で行くと、受益者負担の増加はまぬがれぬこととなる。当初の計画どうり全線国営という示した条件が正しい方法とし、全線国営ということで地元負担金を計算している。又、当事業は水稲を主幹作物としていたので負担金徴収の基準を、米になおし、年間償還額の限度を、米一斗に相当する範囲内とするという考え方も出されていた。こうした考え方のもとに負担額と償還計画が作成され、理事、総代の承認がなされた。

それによると竜丘地区は受益面積二三二、二ha、返済金は全体で五六、四〇八、八三二円、昭和三十五年から六十七年迄に十a当平均二五、三七〇円となっている。

今后の問題点

線になるよう、今后政治的な配慮をもって解決がなされるよう関係者の努力をあおぎたい。

市の受益者負担に対する助成も大体決っていた様だったがこの問題により結論は延ざざるをえない様だ。

竜丘地区内でも昭和二十四年と三十八年の一貫水路に対する申し合わせ事項も未解決であるし、農地以外の水の利用、受益地でありながら水を利用していない畑地畦畔等、地区内の問題についても未解決なことが多い。問題解決のために理事、総代を中心に地区内の関係者の話し合いを密にし納得の行く解決が早急になされることを望みたい。

頌徳碑除幕

桐林の林弥八さんは、長年道作りに精を出され、昨年九月には私財で小学校前の道を舗装された事は前号お伝えしましたが、こうした林さんを讃える頌徳碑（しょうとくひ）が、桐林区民の総意で出来上り、去る十二月六日にはその除幕式が行なわれました。

この碑は縦40cm横80cmの黒御影石に、清水市長執筆による「林さんの善意を讃え後世に伝える」という意味を彫りこんだもので、小学校北門入口脇に建立されました。

この事は一般商業紙でも報道されましたので詳細は省略し以下人間林弥八さんにスポットをあててみました。

○　○　○

「争いは崩壊なり」「能率のおくれる者は敗者なり」これがわしの信条、生命線だった。

こう語り初める林さんは取って八十才、生き生きと語られる昔話しには、年輪と若々しさが同時に感じられる愉しい人である。

大正二年数えて二十三才、体が弱く徴兵を逃れた林さんは、都会方自治と教育で全国津々浦々までその名をはせたいわゆる文化村である。

旅装をとくべく宿に入ろうとする林さんを引きとめたのが村長の息子。ここで彼に会ったのが偶然と言えば偶然、林さんにとっては運命の必然だったのかも知れない。

六枚屏風にぎっしりと貼りつめた文化村視察者の名刺に圧倒され人は「能率の遅れる者は敗者になる」という青年に対する薫陶があったそうで、これが林さんの生命線として根づいたようである。

その后家で竹細工を習っていたが、「太く短かい生き方でもいいから親を安心させたい」と商売を始めたが、昭和初期の大恐慌で失敗、この時四十二才の厄年。太平洋戦争も黄昏近い昭和十九年、竹商売をすべく九州へ渡った。以来の専門医にみてもらおうと三十円（当時米一俵六円）持ち三十日間の旅に出た。この一ケ月が林さんにとってその人生観を形づくる貴重なる日々となった様である。

当時耕地整理の村として知られた愛知県野田村、二宮尊徳の教えを伝える静岡県荻原村の報徳社など見聞し、伊豆の天城を越え稲取村に入る。稲取村と言えば当時地氏の話しの中に、これからの日本と同時にそこで文化村の側面を見る事が出来た、という。そこの女衆が異口同音にふともらした言葉に「勢力争いのみにくさ」があった。その后この村は崩壊への道をたどったそうで、これが冒頭の「争いは崩壊なり」のいわれなのだそうである。

伊東であった明大教授山下信義十五年阿蘇の麓を拠点に九州一円はむろんの事、さいはては雉内まで、文字通り日本中を股にかけ竹商売に歩いたそうである。

この頃から短歌に興味を持ち、日誌代りに書き続けた。

『この時はこういう訳でな！』と説明をお聞きしながら見せて戴いた数十首の短歌と教編の詩は、北海道北見から九州鹿児島に至る一大紀行もので正に圧巻。

この九州で悪路に骨を折った事と、最初に商売を始めた頃煙草貯金として一日三七銭の貯金を始めこれを有為に使いたいと思った事それに長年家をあけ世間の皆様ともお付き合いが出来す申し訳なかった。という三つのことが、郷里へ帰ってからの道作り、そして舗装に至らしめた心境のようである。

若くして信条、信念を持ち、それを貫ぬき通した林さんは、文字通り頌徳に値する人であり、いつまでも健やかにて、竜丘を見守ってもらいたいものである。

あの人　この人

◎**伸びよ健やかに**

氏名	部落	父名
吉川田利子	桐林	広
伊原　裕子	時又	康隆
関島　創太	駄科	健治
園原　正章	時又	正
下平希代子	桐林	祐二
小沢　和代	駄科	勝昭
前島比呂志	桐林	昭男
下平　浩	駄科	辰春
木下　智子	上川路	祐治
下平　恭子	駄科	正文

◎**永遠に幸あれ**

石原　隆	大阪へ	
松枝　久恵	駄科	
市川　広沢	糞輪町へ	
三石　陽子	長野原	
下田　俊夫	時又	
川手　末己	竜江より	

◎**御冥福を祈る**

中川　利之	新潟県へ	
酒向　静子	時又	
岡村　武男	桐林へ	
伊原登美子	時又より	
二和田勝弘	七八	
木下　秀子	東京へ	
木下　敦詞	駄科	
青島八重子	下久堅より	
関谷　功	時又	
漆畑美恵子	富士市より	
奥　勝哉	名古屋へ	
関島奈津子	駄科	
岩堀　周一	時又	
斉藤　あや	長野原より	
小室　忠	上川路	
原　其子	時又より	
山崎今朝人	東京へ	
小島　直江	駄科	
久保田征男	上川路	
小林　淳子	駄科より	
林　豊秋	竜江より	
今村　悦子	上川路	
八田　時夫	飯島町へ	
青島　紀子	時又	
足立　貫次	大垣市へ	
原　武子	桐林	
市来　輝之	名古屋市へ	
小木曽敏子	長野原	
桶谷　誠	恵那市へ	
大平喜美子	駄科	
内田　徳光	名古屋市へ	
林　民子	時又	
塚平　三郎	桐林	
福与りつ子	上久堅より	
原　辰夫	東京都へ	
浜島由美子	時又	
伊藤　祐一	時又　男	九二才
佐々木こと	長野原女	七八
木下　祐一	桐林　男	七六
一ノ瀬千里	駄科　男	六三
吉川　二郎	駄科　男	六四
下平　スミ	時又　女	七八
中島　清志	桐林　男	七一
下平　美喜	桐林　男	六〇
原　一へ	桐林　女	七六
斉藤ふさゑ	桐林　女	七二
代田喜一郎	駄科　男	八九

編集後記

▼謹賀新年と言っても一月もう下旬、年末選挙、年始とあわただしく、発行が遅れていましたがここに一九七〇年第一号をお届けします。

▼昨年末には本紙編集費用を御協力頂き有難うございました。館報をはじめ公民館関係の一切の印刷費が三万余円では如何ともし難く、不本意乍ら御協力頂いた訳であります。この上は引き続き市当局に増額を要求すると共に紙面の充実に心がけて行きたいと思います。今后共宜しく御支援の程御願い申し上げます。

▼岐路に立つ竜丘は休みます。